

泉

若葉学習会専修学校報 No.644
2021 FEBRUARY



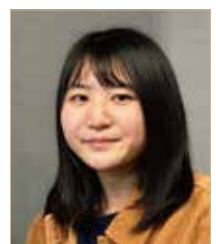
バレンタインもらえないのに教室に
残るあなたは 大妄想中

米子校舎 中学1年 田中 智基

君たち 僕たち



米子校舎 小学2年
川上 藍さん



米子校舎 高校3年
岡城 彩音さん

若葉学習会レプトン米子教室に通う川上藍さんを紹介します。藍さんは、なんと1年生の時から通学してくれています。この「君たち僕たち」に登場する最年少の生徒ではないかと思えます。

写真でも分かるように、ニコニコ笑顔が素敵な藍さんですが、とてもたくさんの習い事をしていきます。レプトンでの英語以外にも、そろばん、ピアノ、体操、水泳、習字を習っているそうです。毎日忙しいですね。

でも、まだまだ2年生ですから、遊ぶことが大好きです。家にある卓球台で、お父さんお母さんと卓球をすることがとても楽しいそうです。学校では友達とドッジボールをしたり鬼ごっこをしたりと、元気いっぱいです。

そんな藍さんには、大きな夢があります。それは形成外科医になることです。自分の傷を治してもらったことがきっかけで、自分もなりたいと思うようになりました。これからたくさんのことを勉強して、そしてたくさんのことを経験して、夢に向かって突き進んでほしいです。

(担当 兼折)

「小学校低学年の時に見たドラマに助産師が出ていて、それを見て興味を持った」という十年以上前からの希望を持ち続け、それを叶えるべく志望大学合格へのラストスパイトで奮闘中です。

県内の学校に進学しても資格は取れるのですが、四年制を卒業した後、もう一年を別の学校で学ばなければならぬので、四年間の在学中に努力すれば助産師の資格まで取れる神戸の学校を目指しています。

彼女と話していて感じるのが周囲への気遣い。中学ではソフトテニス部、高校では箏曲部だった彩音さん。「とりあえず話を聞いてくれそう」「頼りやすい」と友人達から評されるその人当たりは「嫌なことを嫌だと言うのはいいけど、偏見はダメ」という彼女の信条によるものようです。

「ポートルライナー沿線に住みたい。大学に近いので」と大学生活を待ち焦がれる彩音さんですが「将来は米子の病院で働きたい」そう。勉強は大変でしょうが、充実した大学生活を送ってくださいね。まずは吉報を待っています！

(担当 吉野)

卒業生はいま!



野村證券株式会社
伊豆賀 成美 さん

office&campus



「望んでいた大学には合格できませんでした。初めての挫折でした。ただ大学ではやりたいことが全部できました。勉強もサークルもバイトも遊びも活も。鳥取に戻って今の会社で働いている現状も私には理想的です。もし私が希望通りの大学に進学していたら、ここまで一生懸命に生きていなかっただけかもしれません。」
 中高生の頃から穏やかに落ち着いた印象の伊豆賀さんは、実は芯が強く大変な行動派でもあります。つらい挫折を機に「よし、四年間を最高に充実させてやるぞ!」と懸命に努力し、そして存分に楽しみ、理想的な現状を手に入れたのです。実は伊豆賀さんはもう伊豆賀さんではありません。昨年の秋にご結婚なさったのです。ご主人はやはり充実の大学生活で知り合った方。公私ともに充実の毎日なのです。
 さて、伊豆賀さんのお仕事は、お客様に金融商品をお勧めするファイナンシャルプランナー。「お客様にご満足いただいた時に喜びを感じますが、一番嬉しいのはご相談をいただく時ですね。頼られているなと実感できます。」
 「お客様」の話題になると敬語のレベルが一段上がるのは、しっかりと「仕事モード」が身につけている証拠ですね。同僚や先輩にも恵まれて、毎日楽しく仕事ができています。
 「大学ではやりたいことを全部やって下さい。特に専門分野以外のことには挑戦して下さい。四年間だけは自分の意志を優先して下さい!」
 「挫折」から「理想」をつかんだ伊豆賀さんからのメッセージには説得力がありますね!
 (担当 門脇)

窓開放、エアコンは全開! 倉吉校舎の受験直前冬期講習!



今年の冬は数年ぶりの大雪ですね。特に大晦日の大雪は大変でした。そのような中、倉吉校舎では冬期講習が開催されました。冬期講習の恒例ともなつた、寝袋による校舎宿泊。交通事情で遅れることは許されないという一心で、大晦日の前日に宿泊しました。それを知るか、生徒のみなさんは、電話で実施の問い合わせをすることもなく、登校してくれましたね。「信頼されている」ことを強く実感した一日となりました。そして冬期講習のトリは、模擬試験。今年はコロナ感染対策で、みなさんがマスク着用、窓を常に開放した状態での実施となりました。寒い思いをさせた生徒もいたと思います。受験生のみなさんに、色々な意味で「春」がやってくることを願っています。
 (担当 濱)



学園NEWS

倉吉校舎

職員随想

心に残る思い出パートー

美柑 恭史



近年山陰地方は昔ほど雪が降らなくなりましたが、今年も例年と比べて雪が多いような気がする。先日も全国ニュースの中で東北地方が大雪のせいで車中に取り残され、身動きできないドライバーたちの映像を流していた。その時に、10年前(2010年の大晦日)の豪雪によって自分も車中に取り残された一人だったことを思い出した。
 当時の大晦日は休校日で、若葉の校舎には年越し特訓の生徒だけが残っていた。年越し特訓とはセンター試験向けの講座で、希望者に無料で英語と数学を中心に演習する講座だった。とにかく不得意科目を少しでもできるようにしたいという思いで生徒は時間の許す限り問題を解きまくり、教員は解説を行った。特訓後は近くの蕎麦屋から注文しておいた年越しそばをみんなで食べた。そして、理事長室のテレビの前に集まってカウントダウンをし、若葉のバスに乗って勝田神社に初詣に行き、合格祈願をした。中にはおみくじを引いたり絵馬を書いたりする生徒もいた。参拝後、若葉で解散するのが午前2時頃であった。豪雪以降はこのイベントは中止となったが、当時の担当者は新庄先生と自分だった。
 豪雪の日を思い出してみると、お昼過ぎに出動してその日に使うテキストや解説画面を作っていたが、前日は1センチ程度しか降っていない雪が見えるうちに積り、夕方にはもう30センチ近くになったので、特訓の希望者に無理をしないように説明し、残ったのは4人だけになった。
 例年通り午後7時から特訓を始め、1回目の解説を終わって時間
 が9時半ごろだったが、雪が止む気配はなく、若葉の前の道路も50センチは積もっていた。このまま続行することは危険だと思ひ、ひどくならないうちに保護者に迎えに来てもらうように連絡したが、無理だと言われたのがA君とM君の男子二人。彼らは結局近くのホテルに泊まることになった。残りの二人は幸いにも若葉の近くに住んでいたので保護者が迎えに来てくれた。
 11時頃に校舎を閉めて、私達はお互いの無事を祈って帰路に向かった。二車線の道路も雪のせいで一車線しか使えず、若葉から20キロ離れた大山町の自宅まで無事に帰れるの不安だった。米子バイパスを利用した方がいいが、尾高近辺で通行止めをくぐりUターンして9号線に引き返した。ゆっくりだが順調に進み、新年を迎えたのは自宅まで10キロ当たりの所だった。もうあと半分帰れると思いきや、そこから少しも進むことなく車中で朝を迎えた。
 朝の6時からいからは雪も小康状態となり、車の流れもスムーズになってきたのでほっとした。もしかしたらガソリンが切れて凍え死ぬのかなと思ったりした時もあったが、無事に帰宅できたのは妻や家族からのメールや電話が何度もあったからだと思ふ。自宅近辺は1メートル近くも積もっていたので車で帰ることを諦め、雪にすっぽりと埋まりながら歩いて自宅に着いたのが屋の2時過ぎだった。「生きて帰れてよかった」という言葉が一番ふさわしいと思う。
 今では雪が15センチ積もれば除雪車が雪を掻いてくれるし、天気予報もより正確な情報を提供してくれてきているので、あの時のような事態は起こらなくなっているが、地球温暖化や他のいるいるなことが原因で何が起るかわからない時代になっていると思う。「コロナもいつ治まるのかわからないけど、一人一人が「自分のために人のために」という気持ちを持って頑張りたい」と思っています。